



だっこするよ

平成29年12月

社会福祉法人茂原高師保育園

北区立赤羽台保育園

〒115-0053 北区赤羽台1-4-11-105

TEL 3900-0189 FAX 3907-8690

園長 奥戸 昌子

こどもは、自分で育とうとするもの・・・小さな大人です

落ち葉の散歩道をカサカサ、サクサクと嬉しそうに歩くこどもたち。園舎近くの桜の紅葉も見事ですね。日ごとに寒さも増してきましたが、遠出散歩にどんどん出かけ、園庭でも顔を真っ赤にして走り、遊び、まさに「こどもは風の子」です。先月は保育参観・保育参加・個人面談にご参加いただき、有難うございました。「普段の様子が見られて良かった」「家では見せない姿にこどもの成長を感じた」と感想が綴られ嬉しく思いました。傍で見ているとひよこ組さんも、誰かのお世話になるのではなく、自分で自分を成長させたいと考え、行動して持ち合わせている力を全部使って自分自身を生きています。本当にこどもは小さな大人です。

「保育」というと技術やノウハウに目がいきますが、保育者の専門性とはなんのでしょうか。それは、知識や技術を土台にして、小さな人間を育くむという倫理観＝保育者のこどもへの向き合い方、在り方に信念を持っていることが大事です。生まれたばかりで発達段階にいるこどもの尊厳を守ることや権利を保障すること、保育で大切にしたいことを職員間で共有し、形には見えなくても保育の行為からこどもへと伝わる・・・理念、その理念に沿って実践していきたいと考えます。

倉橋惣三氏の有名な言葉「育ての心」その前書きに「自ら育つものを育てようとする心。それが育ての心である。世の中にこんな楽しい心があるか。それは明るい世界である。温かい世界である。育つものと育てるものが、互いの結びつきに於いて相楽しんでいる心である。育ての心。そこには何の強要もない。無理もない。育つものの偉（おお）きな力を信頼し、敬重して、その発達の途に尊うて発達を遂げしめようとする・・・」保育者の心に刺さる言葉です。開園のとき、私たちは、こどもたちの人生のガイドになろうと話しました。そう、主役はこどもです。個々のニーズを見極めて、判断し、案内して、ある方向（健やかな成長）へと進め、指導もします。つまり必要な情報を集め、安全性を確保し、最善の利益を提供します。温かい人間関係と秩序ある生活、安全な給食、より良い遊具や優れた絵本、自然に囲まれて生き物の生命と触れ合える時間、すべて理念へとつながります。また、一つの方法として、園では職員を〇〇先生とは呼ばず「〇〇さん」と普通に名前前で呼ぶことをお願いしています。これは常にこどもと大人が、人間として対等でありたいと思うからです。「先生」という意味は自分の師であることですが、乳幼児期、言葉を身につけている今だからこそ、便宜上安易に誰もが「先生」と呼び合うのは違うと感じます。また、園内で、メジャーなものがマイナーなものへ指導するという圧力や優劣を感じさせないこと、個室の中で支配的な関係や雰囲気を作り出さないためです。私も園長ではなく、昌子さんと呼ばれています。信頼があればそれで「園長」と感じるのです。ただ、保護者の皆さんは、ご自由に呼んでくださいね。こどもたちと共に大人も学び、成長していきたいと思えます。

さて、クリスマスやお正月がやってきます。こどもたちにとって一年で一番嬉しい季節ですね。大掃除や初詣など生活する知恵や文化を体験させてあげてください。小さな大人たちはお手伝いが大好きです。ご家族でゆったりと暖かな時間が流れますように。今年も運営へのご協力が有難うございました。新しい年も平和でこどもたちの笑顔があふれる年でありますように。写真はこじか組 自然観察公園にて「走れ走れ どこまでも」です。